MSC手法を活用したWS

ーモスト・シグニフィカント・チェンジー

STORIA
子どもたちの未来をつむぐ

風とつばさ

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

1.今回のPJの意図と目的

風とつばさ

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

PJの目標

■ 今回のPJを通じて、STORIAでは以下の目標を達成したいと考えました。

1. **生み出してきた価値を共有する**
   - 具体的な成果を確認し、相互に共有することで、価値を発見・共有する

2. **ステークホルダーの間での認識を共有する**
   - SOTRIAが目指す目標や成果を、話し合いのプロセスを通じて確認する
   - 互いに「何を大事に思って行動しているのか」確認する機会をつくる

3. **STORIAのこれまでのチャレンジを振り返る**
   - STORIAがチャレンジしてきた出来事を振り返り、生み出した変化を確認することで、5年間の歩みを参加者が確認する

■ 上記の目標達成のために、運営スタッフのみならず、地域の方々や、遠隔地から支えて下さっているプロボノメンバーにもご参加頂きながら、WS形式で、対話型の場づくりを行うことを決めました。

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

手法について

■ 選んだ手法

- 今回のPJでは、 Most Significant Change (MSC)と呼ばれる手法を選択しました。
- MSCは参加型モニタリング・評価手法の一つで、現場レベルで生まれる膨大な「変化の物語（Story / Testimony＝証拠 / Narrative）」を収集し、選定し、価値を確認し、改善に活かす手法を指します。

■ MSCのステップ

- MSCは一般的に右図の10のステップで構成されます。
- PJでは、2～6にフォーカスし、ワークショップを実施しました

1. MSCへのチャレンジの意思を確認する/興味を喚起する
2. 変化の領域を決める
3. 時間の範囲を決める
4. 変化の物語を集める
5. 選ぶ
6. 選択の過程をフィードバックする
7. 検証する
8. 定量化する
9. 二次分析を行う（メタ・モニタリング）
10. システムを改変する

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

フォーカスしたポイント

■ 生み出した価値を検証するために、STORIAにとって大事な存在である１.子どもたち、そして２．保護者の皆さん、加えてSTORIAに関わる私たち自身、さらにはSTORIAそのものの4つの切り口から、どんな変化が生まれたのか、そのストーリーをWS形式により抽出しました。

1

子どもの変化

- STORIAの事業かつ、もっとも大切な主体である子どもの変化

（問い）

✓ STORIAが存在する（活動する）ことで、子どもたちにどんな変化が生まれたか？

2

保護者の変化

- 子どもたちの変化やSTORIAの関わりによって生まれた、保護者の変化

（問い）

✓ STORIAが存在する（活動する）ことで、保護者にはどんな変化が生まれたか？

3

私の変化

- STORIAに関わり、今回の場に来ている「皆さん自身の」変化

（問い）

✓ STORIAに関わることで（あるいは子どもたちと関わることで）あなた自身にはどんな変化が起きたか？

4

STORIAの変化

- 場を生み出し、人を繋げる主体としての「STORIA」の変化

（問い）

✓ 活動を通じて、STORIAはどう変化したか？

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

PJのフロー

■ PJは、2回のWSを軸に、STORIAのPJチームと、今回伴走頂いている㈱風とつばさのコンサルタント・水谷さんとの間で話し合い、相談しながら進めていきました。

内容や進め方に関する検討	• PJチームと伴走者で内容を検討
ヒアリング	• STORIAスタッフが子どもたちにヒアリング • 結果をWSに向け集約・まとめ
WSの実施（その１）	• 上記ヒアリングの結果も共有しながら、WS内でそれぞれのStoryを3つのフォーカスポイントについて内省・共有
結果の整理・次回WSの検討	• WS１の結果をSTORIA側で整理 • その内容を基に、WSその２を企画立案
WSの実施（その２）	• 前回の振り返り • 最も重要なストーリーは何か、確認
結果の整理	• 2回の話し合いの結果を整理
振り返りと共有	• 参加者に対して結果を共有 • STORIAのネクストステップに活かす

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

2．WSの内容について

風とつばさ

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

WS（Day１）について

- Day１は、2021年２月６日（土）13：00~17：00に行いました。
- 初回のWSでは、「子ども・保護者・私たち」についてどんな変化が起きたのかを言語化することを目的に、スタッフ・ボランティア・プロボノ・地域の方々と対話を深めながらその理由を深堀することをしました。

1. **チェックイン**
   - あいさつ、自己紹介
2. **今日のテーマ・場の位置づけの解説**
   - ファシリテーターの水谷から解説
3. **改めて、SOTRIAが目指してきたこと・目指していること**
   - 代表からのプレゼンテーション
   - 何を目指す組織なのか・活動なのか、ロジックモデルも使いながら、解説
4. **子どもたちの声（ヒアリング結果の共有）**
   - スタッフが行ったヒアリング結果を全体に共有（プレゼン形式）
5. **「私」が考える、それぞれの変化**
   - ①子どもたちの変化、②保護者の変化、③私の変化について、それぞれが考えるストーリーを出し合う
   - 出てきたストーリーについて、共有
6. **チェックアウト**
   - 次回の案内、宿題

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

WS（Day1）で得られた意見

1 子どもの変化　2 保護者の変化

- **「4．子どもたちのヒアリング」を通して感じたこと（担当スタッフから）**
  - **子どもたちの成長**
    - 自分の気持ちを言語化できるようになり、伝えてくれたことが嬉しかった。
  - **STORIAへの信頼**
    - 素直に自分の言葉で話してくれていたので、信用してくれているだと感じた。
    - みんな言葉は違えども共通して「自由な場所」であることが価値として感じていたことがわかった。
- **改めて「子どもたちに生まれた変化」とは何か**
  - **能動性・自己肯定感**
    - 「自分の人生だから自分で決めたい」という意志ある気持ちや、「自分の頑張りを自分で認めようとする」言葉を聴いて、大人でも難しいことを考えていることがわかり、凄いと思った。
    - 男の子の「自分が変わったら見える世界が変わり、親や相手の気持ちをよく分るようになった。」という話がとても印象深かった。
  - **他者を思いやる気持ち、受け取っていた「愛」に対する認知・理解**
    - 「恩返しとして自分のできることをしたい」という言葉。小学生の頃は支えられる側であったが、居場所を卒業し、ジュニアボランティアとして支える側になった時、どれでけ自分が親や地域の方やスタッフ・ボランティアに愛されていたのかということに気付き、感謝が生まれたのではないか。
  - **人との関わり方への変化**
    - コミュニケーションが苦手な子が背景や意図を想像することができるようになり、人との関わり方が変化した感じた。
    - 抑圧していた気持ちを出せるようになり、大切にされていることを受け止められるようになった。
    - 下級生の相手をすることで人の気持ちへの理解が深くなり、母親との関係性が回復し、日に日によくなっている。

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

WS（Day1）で得られた意見

3
私の変化

- **私たち自身の変化と気づきについて**
  - **信頼できる大人と出会う大切さ**
    - 子どもはできるだけ早いうちに、信頼できる大人と出会えるかが大切だと思った。子どもの能力や可能性は無限大で、大人の関りで子どもが変わることに気が付いた。
    - 最初は「何かしてあげる」ことで子どもたちに変化があったらいいと思っていた。しかし「自分が素直に接すること」が大切なんだとわかった。
  - **子どもに対する固定観念からの解放**
    - 「子どもへ〇〇をしなければならない」という固定観念から 、「子どもと一緒にこうしたい」という気持ちへと変化が生まれた。その結果、心に余裕が持てるようになった。
    - こども全員を公平に見ながら、広い視野で関わることが大切だと思っている。
  - **現場から離れているからこその価値**
    - 現場と離れているので、想像力を働かせないとサポートできない。 自分がこの環境にいったらどう感じるのか、どう見えるのかを感じられるようになり、話を聞く力が高まった。現場にいいないからこそ考えられる思考や発見 ができる。
    - 多様性の一部であり、異質な存在だからこその価値 があると感じた。
  - **自信の獲得、自己肯定感の向上**
    - STORIAに関わることで、会社でも自分の考えを言えるようになった。自分自身に変化が起きた。
    - 自分が以前やりたかったことをSTORIAで達成でき、自信につながっている。子どもや孫が増えた思いで感謝の気持ち。
    - アップデート方式、ローリングアップデート方式で考えることができるようになった。（最適解や納得解を考え行動に移すことができた ）

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

3
私の変化

■ **私たち自身の変化と気づきについて**

- **ありのままでいられる場所**
  - 「自分の価値を提供したい、貢献したい」と思っていたが、肩書や立場で繋がっているのではなく、想いの共有や循環の広がりを感じるようになった。すべてが赦され戻れる場であることに、自分自身が安心感を感じた
  - 自分の価値観が変えらる切っ掛けとなった団体と、STORIAとは思想やあり方が共通している。自分自身、ポジティブなことは素直にならないと言えないが、自分が思っていることを伝えられるようになってきた。
  - 子どもたちが「ありのままでいる」姿を見て、そのように生きたいと思った 。自分の人生を生きるようになった 。
  - これまでは会社に自分合わせていたが、自分ととSTORIAが重なる関わり合いが「ありのままに生きていいんだ」と思えた。
  - 人の弱さに敏感な自分に気が付いた。
  - 愛情を受け止められるようになった 。
- **優先順位の変化、価値観の確認**
  - いつも優先順位が低かった「食事」が、子どもたちと一緒に食べることを通じて大事なものだと思えるようになった
  - 地域の方々を通して人とのつながり、それを大切にする事が自分にとって意味のあることだということが分かった。

[Day1での気づき・まとめ]

- 子どもがトリガーになって大人に変化が訪れているのではないか ？
- 子どもが解放されることで大人が解放されているのではないか？
- 「子どもを変えようとする」ことではなく、逆のアプローチをとることが、プラスに働いているのではないか

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

風とつばさ

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

DAY1　ワークショップ風景

WS（Day２）について

- Day２は、２月１６日（土）に行いました。
- 2回目のWSでは・・・・を目的に・・・・・・・

1. **チェックイン**
   - あいさつ・アイスブレイク
2. **前回までの振り返り**
   - ファシリテーターの水谷から解説
3. **得られたストーリーのシェアリング**
   - それぞれに出して頂いたストーリーをすべて並べ、確認
   - どんなことが大切にされているのか、ディスカッション
4. **優先順位付け・投票**
   - 得られたストーリーを眺めながら、何が生まれたのか、STORIAの目指す目標から考えると、何が重要なのか、ディスカッション
5. **改めて考える、STORIAの価値とは？活動の意義とは？**
   - それぞれが考える活動の意義や価値を言語化・共有
6. **チェックアウト**

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

WS（Day2）で得られた意見

4
STORIAの変化

■ STORIAの変化

- **子どもたちを信じる・委ねる姿勢へ**
  - 「子どもたちの課題を解決する」という思考から、「良いところを見て伝える」という志向へと変化した。
  - 居場所の運営が「子どもたちの良いところを伸ばすにはどうしたら良いか」という視点を中心として、話し合われるようになった
  - 子ども自身がやりたいこと・やらなければならないことを話し合い、子ども自身で何をするのか決めるというスタイルに変化した
- **関わり方の多様性がより豊かに**
  - 色々なバックグラウンドがあり、多様性ある人の関りが増えている。
  - 関わってくれている人の数が増えた（サポーターやプロボノ）。
  - 現場で関わる人、現場から離れている人との多様性とバランスが、今のSTORIAの組織を作っている。
  - 傍観者ではなく、参加者としてSTORIAに参画する人が増えている。
  - 多様な人との接点の数（関わる機会：はじめまして）が増えている。しかし、広がっているけど薄まっていない。
- **多様性や豊かさが子どもにも、運営側やサポーター側にも伝播**
  - 子どもたちにとっても、普段とは違う「大人」と出会える環境へと変化しており、子どもたちの多様性を受け止め、未来を広げる可能性が高まる環境が少しずつ生まれている
  - 地域への広がりもあり、東京在住のプロボノ、移住者など、多様性のある人がSTORIAを支えている。そして、そうした人たち自身も満たされている。
  - STORIAの成長に合わせて周りの人も成長している。

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

WS（Day2）で得られた意見

4
STORIAの
変化

- **STORIAの変化**
  - **リアリティと共感の増幅**
    - 愛情の循環モデルにリアリティと共感が生まれ、多様な行動が引き起こされている。
    - 仮説から事実となり、変化が起きている。その結果、取り組みに対する自信が湧いてきている。
    - 変化が起きることで共感の輪が広がり、発信しやすくなっている。
  - **「あり方」の重要性の認識**
    - 何をやるのかということも大切だけれど「あり方」が大切だと気が付いた。
    - 「あり方」は、本質的な価値を大切にすることにつながるので、結果事業や団体が豊かに発展している。
    - 「あり方」が変わらなければ、スタッフが変わっても場が変わらないし、STORIA自体も変わらない。

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

WS（Day2）で得られた意見（全体ディスカッション）

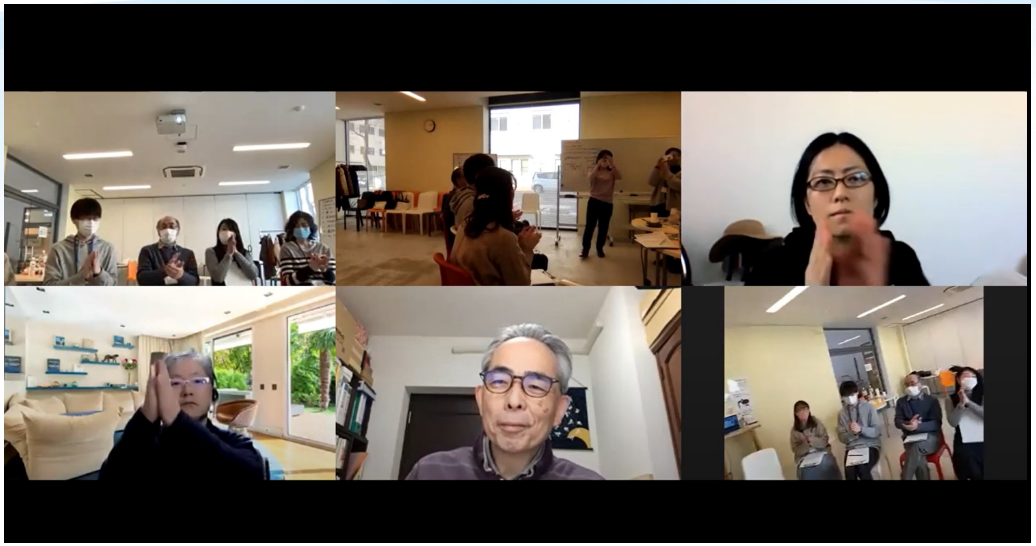
- **STORIAの価値について**
  - **振る舞い・スタンスとしての価値と、場としての価値の両面があるのではないか**
    - 「個をありのまま受け入れる」のがSTORIAの良さ。そして、それが継続的・安定的に提供されていることが価値なのではないか。
    - それが出来るのは地元でそれを支える方が存在しているからこそ。そうでなければ安定・継続はあり得ない。地元の人のサポートがあって実現されている奇跡的な場ではないか。
  - **型にはめない、「～すべき」からの解放**
    - 最初は「学習支援」「居場所」とはこうあるべき、という型があって、子どもたちをそれにはめようとしていた。だから子どもたちがそこから外れると怒っていた。しかしそれでは場が生きないと感じ転換したことが良かったのだと思う。
    - STORIAの「ありのままを受け止める」という姿勢が、子どもたちの心にある重荷を空っぽにし、資質が活かされ、可能性が芽生えてくるのではないか。
    - 「勉強させなければならない」という固定観念を早い段階で捨てられた、止められたことが良かった。そのことが、子どもたちを解放し、自分自身も解放された。
  - **多様性の受容**
    - STORIAの価値にはまらない人を排除するのではなく、違いや多様性も受容できることが価値である。
    - 自分自身もプロボノとしてオンラインの場でも存在を受け止めてもらい、尊重されている感がある。
    - STORIAの価値は「自分自身がこうありたい」という願いが込められている。願いは願いであって、全てが体現出来ているわけではないが、できない自分も振り返りながら、それでもそうありたいと思うことが重要。

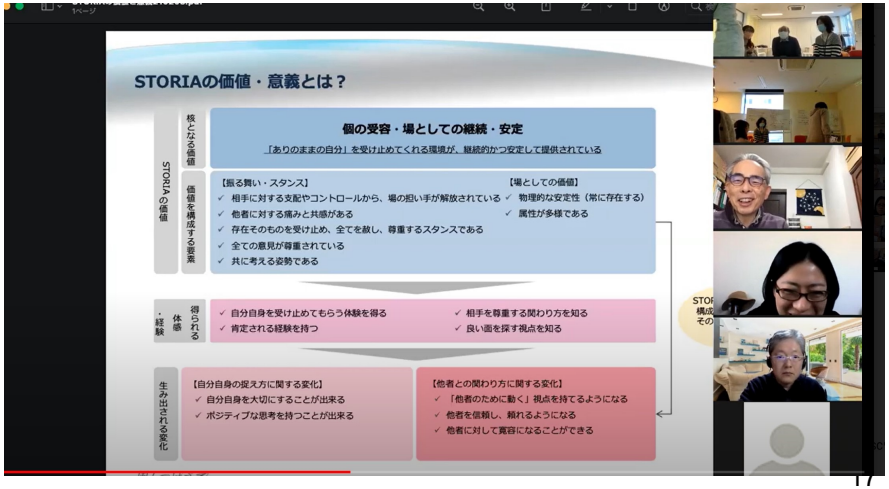
© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

WS（Day2）で得られた意見（全体ディスカッション）

- **STORIAの価値について**
  - **弱さ・もろさに自覚的に**
    - 弱さを皆で補うことがSTORIAの場の価値であるのではないか。
    - 人の弱さ・もろさを自覚して、その上でどんな関係性や場をつくれるのか、考えるスタンスに立つことが大切なのではないか
  - **生み出した価値や意義に自覚的に、しかし固定されずに**
    - STORIAについて、他の子ども支援や学習支援、子ども食堂の支援団体とは違う何かがあるともやもやと思っていた。しかし今までそれを理解できていなかった。今日やっとわかった。
    - STORIAの価値が支持されるようになってきたのではないか。そしてその価値は、大人も欲しているのかもしれない。
    - 価値は大切だが、「こうあらなければならない」となってしまうとそれはまた違う。「あるべき」というスタンスになると、STORIAが持つ価値が変質してしまう。
  - **STORIAの価値は、子どもたち以外へも広く波及し始めている**
    - STORIAの価値について、「子どもにとっての価値」と限定的に捉えていないところが良い。主体を特定せず、STORIAに関わる全ての人たちにとっての価値を考えていけると、本質をとらえられるのではないか。
    - 年齢や経験が違う中でこの価値が共有し、共に認識できること嬉しい。
    - WSの参加者は、現場で子どもたちに触れあっている人ばかりではないのに、STORIAの価値について、皆が共通認識が持てて嬉しい。自分は現場にいるが、書かれた「STORIAの価値」が自分の実感ととても近いと感じた。

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.





© 2017 kazetotsubasa, Inc. All Rights Reserved.

3．成果

風とつばさ

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

STORIAの価値・意義に関する整理

■ 2日間のWSを通じて得られた発見を基に、STORIAが生み出してきた価値や意義について、下記のように整理を行いました。

STORIAの価値

核となる価値

個の受容・場としての継続・安定

「ありのままの自分」を受け止めてくれる環境が、継続的かつ安定して提供されている

価値を構成する要素

【振る舞い・スタンス】

- ✓ 相手に対する支配やコントロールから、場の担い手が解放されている
- ✓ 他者に対する痛みと共感がある
- ✓ 存在そのものを受け止め、全てを赦し、尊重するスタンスである
- ✓ 全ての意見が尊重されている
- ✓ 共に考える姿勢である

【場としての価値】

- ✓ 物理的な安定性（常に存在する）
- ✓ 属性が多様である

得られる体感・経験

- ✓ 自分自身を受け止めてもらう体験を得る
- ✓ 肯定される経験を持つ
- ✓ 相手を尊重する関わり方を知る
- ✓ 良い面を探す視点を知る

生み出される変化

【自分自身の捉え方に関する変化】

- ✓ 自分自身を大切にすることが出来る
- ✓ ポジティブな思考を持つことが出来る

【他者との関わり方に関する変化】

- ✓ 「他者のために動く」視点を持てるようになる
- ✓ 他者を信頼し、頼れるようになる
- ✓ 他者に対して寛容になることができる

STORIAの価値を構成する要素がそのまま受益者に伝播

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.

振り返りと成果・課題

■ **成果について**

1. STORIAの価値と意義を皆で言語化と可視化したまとめシートを完成することができた。
2. シートの背後にある意味、意図、一つ一つの言葉の背景にある子どもたちのストーリーからSTORIAが学んできたことを、運営者＝PJの主要メンバーだけではなくて、WSに参加した人（多様な背景と属性と役割をもってSTORIAに関わっている人）みんなで共有することができた。
3. 参加者が、自分がそこにいる意味（＞STORIAに関わる意味、＞子どもたちに関わる意味）を感じ、愛情＆感謝が循環する場を作り出す場に自ら包摂されているのだということに気が付いたこと。そして、その一員であることに有用感を感じることができた。

［STORIAの最大の気づき］

生み出された価値が人によるものならば、人が変わることによって核となる価値が変化する。
結果、団体も変わって当然である。
その時、そこにいる人達が、コアとなる価値を認めていくことこそが大切であり、
「STORIAはこうでなければならない」という固定観念に縛られる必要はない。

■ **課題（※成果をみると、課題はとても小さい。）**

1. この変化が生まれるプロセスと成果をより広く伝える、波及させるために出来ることは何か。どう広げられるのかについては今後考えていく必要がある。
2. STORIAのコアな価値は簡単には変わらないが、人が増えるとその人なりの広がり方もまた生まれ、常に流動し可変的なものであるため、常に確認したり見直したりする必要性がある。そのサイクルをどう作っていくかを考えることが今後は大切。

© 2017 kazetotsubasa, inc. All Rights Reserved.